



元気っ子通信

No.51

平成 25 年 6 月 14 日

新入生が入って2ヶ月が経ちました。初めは上級生との関わりにも様子見といった感じでしたが、もう今ではすっかり溶け込んで遊んでいます。こうして新しい環境に慣れていくのも成長のしるしです。

学童には集団生活の中で約束事があります。これは家庭でのしつけとはちがったものです。みんなの中で、迷惑をかけない、勝手にしない、お互いに気持ちよく生活するための約束です。これが出来るかできないかはまず家庭の生活が基本になります。

新しい指導員の話です。昔、野球部のコーチをしている時に、入部を頼みに来た親が「学校の先生の言うことも聞かない、親の言うこともきかない、なんとかしつけてください」と頼みにきたそうです。そのときの監督の言葉が「ここは野球がうまくなるようにはがんばりますが、しつけは親の責任です。」ときっぱり答えたそうです。

昔とちがって両親が働いているので、子供が親と過ごす時間がみじかくなっています。だからこそ、毎日の生活の中で、親がしっかりと教えるべきことを身につけさせて欲しいと思います。ことばづかい、トイレの使い方、食事の作法、あいさつ、物の大切さ、無駄なことをしない(電気、紙、文房具など)などたくさんあります。目に見えないけれど家庭でこそ大切に身につけておくべきことで大人への準備でもあります。

遊びたくて宿題もいいかげんになりがちだった子がさっさと終わらせるようになったり、恥ずかしさか一人遊びの多かった子が仲間と声を出して遊ぶようになったり、年齢に関わらずに話が出来る様子は見ていてかわいく、うれしいものです。小さな成長の積み重ねが指導員のはげみです。



以上